

事業所名

児童デイサービスめいほう

支援プログラム

作成日

令和7年

2月

6日

法人（事業所）理念		地域社会に生かされている一人の人間として、自分に与えられた能力を十分に地域社会に還元する											
支援方針		こどもを主体とした支援を行い、こどもたちの笑顔がたくさん見られるような環境作り。 様々な医療的デバイスに対応し、日常的に医療的ケアを必要とする児童の健康を維持し、地域での生活をサポートしていく。											
営業時間		平日 学校休日	9 8	時	00 30	分から	18 17	時	00 30	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	看護師による日常の健康状態のバイタルチェック。様々な医療的デバイスに対応し、日常的に医療的ケアを必要とする児童の健康を維持する。その他日常の援助、排便コントロールを実施する（呼吸器管理・吸入・吸引・導尿・経管栄養・薬の投与等） 看護師と支援員との二人介助で、全身状態の観察を行い、全身の清潔と衣服の交換により爽快感を得る入浴支援を行う。 食事を通して、様々な形態や味の食べ物を食べる経験を積み、食事の楽しさや摂食嚥下訓練を楽しく実施する（昼食・おやつ提供） 呼吸リハを実施することにより、胸郭の可動域の拡大と維持、呼吸状態の改善を図り、体調管理を図る。 個人の発達段階に応じた支援を行い、成長発達を促す。											
	運動・感覚	機能訓練指導員（理学療法士・言語聴覚士）による個別の専門支援の実施（側弯の予防や維持・関節可動域訓練・座位の練習・立位保持の練習等）、個人の発達段階に応じた支援を行い成長発達を促す。 遊びを通じて、粗大運動や微細運動を実施し、生活動作へのアプローチにつなげる。 マッサージや体操により、固有感覚・皮膚感覚への刺激を促し、ボディイメージの実施。反復動作を実施することにより、慣れと学びを促す。											
	認知・行動	季節に合った行事を体験することにより、季節の移り変わりや時間の流れを感じる。 日常動作の中で、言葉や数字等の理解につなげる。 おやつ提供の際は、自発的に選択ができるように声掛けを行い、食べたいものを楽しく食べる。 家族以外の人や場所以外で、楽しく落ち着いて過ごせるように支援を行う。 個人の発達段階に応じた支援を行い、成長発達を促す。											
	言語 コミュニケーション	個人個人にあったコミュニケーションの方法を獲得できるように支援を行う。 本人の気持ちをくみ取りながら、その内容を代弁し、本人自身が発信することができるようになるための工夫を行う（絵カード等の使用） 本人が出しているサイン（表情、動作、声のトーン等）を見逃さないようにし、個人の発達段階に応じた支援を行い、成長を促す。											
	人間関係 社会性	事業所内の職員や利用児と関わり、信頼関係を継続し、安心感を得て、人間関係を構築できるように関わる。また、他児と協力体制で作業等を行う中で、喜びや達成感を一緒に味わえるような成功体験を積み。 遊びや集団活動を通して、ルールや人と関わることの楽しさを構築できるような支援を行う。 個人の発達段階に応じた支援を行い、成長発達を促す。											
家族支援		利用時の連絡帳や送迎時に家庭内での様子や困りごとを把握し、年2回の個別面談の際には解決につながるようなアドバイスができるように、職員間での情報共有と話しやすい場の環境を作る。 家族参加型の行事の提案を行い、他の家族と関われる機会を増やす。						移行支援		ライフステージの切替を見据えた将来的な移行に向けた準備として、地域の生活の場や育ちの場との交流や情報共有を図り、連携を行う。			
地域支援・地域連携		こどもたちが地域で生活していく上で、本人や家族がより過ごしやすい社会を作ることを目標とした包括的な支援ができるように、医療機関、保健所、学校、保育園等の関係機関との連携をはかり、個別のケース検討会議への出席等を行う。						職員の質の向上		社内での全体研修や勉強会の参加。 公的な外部研修に参加し、それらの内容を所内の職員に伝達する社内研修を行い、職員の知識・技術の質の向上を図る。			
主な行事等		季節の移り変わりを感じられるように、各季節にそったイベントの開催（お花見・母の日・父の日・七夕・敬老の日・ミニ運動会・ハロウィン・クリスマス・節分・バレンタイン等） 親子で参加できる行事の開催（夏祭り・餅つき・音楽会等）											

事業所名

児童デイサービスめいほう

支援プログラム

作成日

令和7年

2月

6日

法人（事業所）理念		地域社会に生かされている一人の人間として、自分に与えられた能力を十分に地域社会に還元する											
支援方針		こどもを主体とした支援を行い、こどもたちの笑顔がたくさん見られるような環境作り。 様々な医療的デバイスに対応し、日常的に医療的ケアを必要とする児童の健康を維持し、地域での生活をサポートしていく。											
営業時間		平日 学校休日	9 8	時 時	00 30	分から 分	18 17	時 時	00 30	分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	看護師による日常の健康状態のバイタルチェック。様々な医療的デバイスに対応し、日常的に医療的ケアを必要とする児童の健康を維持する。その他日常の援助、排便コントロールを実施する（呼吸器管理・吸入・吸引・導尿・経管栄養・薬の投与等） 看護師と支援員との二人介助で、全身状態の観察を行い、全身の清潔と衣服の交換により爽快感を得る入浴支援を行う。 食事を通して、様々な形態や味の食べ物を食べる経験を積み、食事の楽しさや摂食嚥下訓練を楽しく実施する（昼食・おやつ提供） 呼吸リハを実施することにより、胸郭の可動域の拡大と維持、呼吸状態の改善を図り、体調管理を図る。 個人の発達段階に応じた支援を行い、成長発達を促す。											
	運動・感覚	機能訓練指導員（理学療法士・言語聴覚士）による個別の専門支援の実施（側弯の予防や維持・関節可動域訓練・座位の練習・立位保持の練習等）、個人の発達段階に応じた支援を行い成長発達を促す。 遊びを通じて、粗大運動や微細運動を実施し、生活動作へのアプローチにつなげる。 マッサージや体操により、固有感覚・皮膚感覚への刺激を促し、ボディイメージの実施。反復動作を実施することにより、慣れと学びを促す。											
	認知・行動	季節に合った行事を体験することにより、季節の移り変わりや時間の流れを感じる。 日常動作の中で、言葉や数字等の理解につなげる。 おやつ提供の際は、自発的に選択ができるように声掛けを行い、食べたいものを楽しく食べる。 家族以外の人や場所以外で、楽しく落ち着いて過ごせるように支援を行う。 個人の発達段階に応じた支援を行い、成長発達を促す。											
	言語 コミュニケーション	個人個人にあったコミュニケーションの方法を獲得できるように支援を行う。 本人の気持ちをくみ取りながら、その内容を代弁し、本人自身が発信することができるようになるための工夫を行う（絵カード等の使用） 本人が出しているサイン（表情、動作、声のトーン等）を見逃さないようにし、個人の発達段階に応じた支援を行い、成長を促す。											
	人間関係 社会性	事業所内の職員や利用児と関わり、信頼関係を継続し、安心感を得て、人間関係を構築できるように関わる。また、他児と協力体制で作業等を行う中で、喜びや達成感を一緒に味わえるような成功体験を積み。 遊びや集団活動を通して、ルールや人と関わることの楽しさを構築できるような支援を行う。 個人の発達段階に応じた支援を行い、成長発達を促す。											
家族支援		利用時の連絡帳や送迎時に家庭内での様子や困りごとを把握し、年2回の個別面談の際には解決につながるようなアドバイスができるように、職員間での情報共有と話しやすい場の環境を作る。 家族参加型の行事の提案を行い、他の家族と関われる機会を増やす。						移行支援		ライフステージの切替を見据えた将来的な移行に向けた準備として、地域の生活の場や育ちの場との交流や情報共有を図り、連携を行う。			
地域支援・地域連携		こどもたちが地域で生活していく上で、本人や家族がより過ごしやすい社会を作ることを目標とした包括的な支援ができるように、医療機関、保健所、学校、保育園等の関係機関との連携をはかり、個別のケース検討会議への出席等を行う。						職員の質の向上		社内での全体研修や勉強会の参加。 公的な外部研修に参加し、それらの内容を所内の職員に伝達する社内研修を行い、職員の知識・技術の質の向上を図る。			
主な行事等		季節の移り変わりを感じられるように、各季節にそったイベントの開催（お花見・母の日・父の日・七夕・敬老の日・ミニ運動会・ハロウィン・クリスマス・節分・バレンタイン等） 親子で参加できる行事の開催（夏祭り・餅つき・音楽会等）											